

第 95 回（9 月 19 日開催）でいただいた
大学院のリカレント教育に関する主な御意見

- 大学院における学位の取得を目指した学び直しについて、修士・博士、専攻分野等によって、ニーズや学生のリクルート方法も異なる。
- 海外の大学では、オンライン受講や企業への PR、同窓会の組織化等が盛んに行われている。また、社会人としての経験を踏まえて研究計画を定め入学してくる学生に対し、日本の大学教員が伝統的なアカデミズムの中で研究指導を行うには不十分な点もある。これらを踏まえた大学の体制構築は難しいものであるものの、リカレント教育促進に当たっては必要。
- 単位の互換や履修証明プログラム等での学修に対する単位付与等、リカレント教育の活性化の面では前向きに検討すべきであるが、大学院の課程、カリキュラムとは何なのかを踏まえる必要がある。
- 分野や職種により差はあるものの、大学院修了者の賃金プレミアムは平均 30%程ある。企業側もリカレント教育には前向きで、学修者に対する費用負担や適切な評価等のインセンティブを考えている事例もある。
- リカレント教育の充実に伴い様々な形態による教育が進む場合、大学院における定員管理の議論を今後の課題として挙げる必要がある。